

# 「東日本大震災」対策 news NO.49

2011年7月15日(金)

生協労連震災特設 URL <http://cwu.jp/action-cms/shuto/>

全国生協労働組合連合会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-1-9

TEL 03-3408-0067 <http://cwu.jp/>

FAX03-3408-8955 QYG03057@nifty.ne.jp

## 東日本大震災、福島原発事故から4か月

### 被災地では生活再建の目処が依然として立たず 福島原発事故処理も難航

7月11日で東日本大震災、福島原発事故から4か月が経過しました。警察庁のまとめによると、11日現在の死者・行方不明者合わせて20,894人、津波や原発事故の影響で、全国で10万人近くの方がいまだに避難生活を余儀なくされています。被災地では瓦礫の処理もなかなかすすまない、仮設住宅ができて入居できないなど、依然として被災者の生活再建の目処がたたない状況が続いています。

## 7月8日 全労連の復興対策会議が開催される

### 7月末から8月のボランティア支援を確認 7.28行動の成功へ意思統一

7月8日(金)に全労連の第8回震災対策本部会議が開催されました。当日は、岩手県、宮城県、福島県の代表も参加し、深刻な被災地の状況が報告されるとともに、当面の被災地へのボランティア支援、7月28日に行われる「国民要求実現7・28中央行動」成功に向けてのとりくみなどが確認されました。

<3県から報告された被災地の状況>

**岩手**—仮設ができたが周辺に店がない、義捐金をもらっても将来不安で使えない、瓦礫の撤去がすすま  
ずハエの大量発生と悪臭がひどい。県は復興計画を策定し、7月末までにパブコメを募集、7月9日  
に復興県民会議が発足

**宮城**—仮設住宅、避難所のひどさが目立つ。県の復興会議のメンバーは東京在住の委員が多く、東京で  
開催されている。特区構想への漁民の怒りは頂点に。漁業を知らない人に漁業を語らせるな！海岸線  
は3.11直後のままで何もかわっていない、自治体の力ではどうしようもない、

**福島**—福島県復興ビジョン(提言)が出され、「原発に依存しない、安全・安心で持続的に発展可能な  
社会釣り」が基本理念に、これから県議会にかけられ、最終的には知事が判断。知事は提言を尊重す  
るとはしているが、第1原発の5・6号機、第2原発については廃炉を明言していない、6.25原発な  
くそう集会は1千人の参加で成功、11月には全国集会を準備、賠償問題で東電は「労働者の賃金はは  
ずされる」と主張、これから大規模な賠償請求運動にとりくむ(JA、商工団体連合会、福商連、県労  
連も参加)

## 二つの署名のとりくみを急ごう

今、全労連が呼びかけている二つの署名(「震災復興署名」と「福島原発署名」)に生協労連もとりく  
んでいます。この二つの署名は7月28日の中央行動で政府と東京電力に提出します。職場、労組室に  
ありましたら、早急に生協労連まで送ってください。

よろしくお願ひします。

# 第4回、生協ボランティア開催報告

## 冷たくておいしい！

コープふくしまでは7月9日に第4回の労使共同生協ボランティアをあづま総合運動公園の体育館でおこないました。当日は今年一番の35度の最高気温を記録し、暑さを予想して用意をしたカキ氷は大人気となりました。

当日はかながわ生協労組パート部副部長の東正子さんが参加をされました。東さんからはかながわ生協労組からの震災見舞金をいただきました。これらのお見舞金は、今後のボランティア活動に有効に活用させていただきたいと思っております。

この日はパキスタンのNGOのみなさんが、本場のナンカレーの配布を行い、暑い夏に辛いカレーと冷たいカキ氷は、大人気となりました。列に並んだ小学生も、「冷たくておいしい」とお母さんと一緒に喜んでいました。こんごも引き続きボランティアをおこないます。  
(福島生協労組ニュース・スクラムより)



見舞金を届けていただいたかながわ生協労組の東さん(右)

## 東日本大震災被災者救援ボランティア派遣報告

生協労組ちば「夢飛行NO.122」より コープデリ宅配事業部のパート職員繁田さんの報告です。

6月24日から27日にかけて、全労連がコーディネートする被災者救援ボランティアとして、個人参加しました。初日は、宮城県災対連「石巻支援共同支援センター」まで7時間、新幹線や路線バスなどを乗りついで移動しました。車中から見ると、道端の瓦礫はほとんど撤去されていて一見片付いたように見えますが、まだ道路は穴だらけで幾つかの交差点では警察官の誘導が続いていました。

支援センターは震災にあった焼鳥屋の店舗を間借りして、ボランティアを受け入れていました。店主の阿部さんは漁師ですが、船は津波で流されてしまったそうです。「妹とは被災から3日経ってやっと再会できたんだよ。」と当時のことを何度も何度も繰り返し話してくださいました。その妹さん宅が女性ボランティアの宿泊場所となっていました。被災住居ですが、WCに風呂も使えて何不自由なく過ごせました。自衛隊風呂にも入りましたが、避難所からは通うのが面倒で何週間もお風呂に入らない人もいます。

支援は3日間、3箇所の住居やその周辺で作業しました。庭に突っ込んだトレーラーや濡れた畳は機械で撤去してもらいましたが、家の中の床板はがしやヘドロ水の汲み出しやヘドロかき、なぎ倒されたブロック塀の除去、側溝に溜まった瓦礫やヘドロ除去などは、人の手で作業します。一箇所終わってもまた隣家と、要望は次から次へと湧いてきますので幾らでも仕事はありました。作業をしながら、つくづく「最後は人なのだなあ、目の前のヘドロをひとかきしてくれる手が欲しいなあ。」と思いました。作業中のWCは、その家のWCが使えなければ近くの避難所(小学校)の仮設WCをお借りしました。作業中スタッフの方に「帰れば仕事があるのだから無理はしないでくださいね。」と声を掛けていただいたおかげで、今の自分ができることをできる範囲でやらせていただけたと思います。

今回は、職場や家族を初め、労組、災対連のスタッフ、焼鳥屋とんこのご夫妻、宿泊先のご夫妻、全国から集まるボランティア仲間にご助けをいただき、念願のボランティアをさせていただくことができました。ありがとうございます。また、日程調整して石巻へ通いたいと思います。